

令和4年度第3回スポーツ推進審議会 議事概要

1. 日 時 2022年9月7日(水)午後3時～4時10分
2. 場 所 藤沢市役所 本庁舎8-3会議室
3. 出席者 審議会委員10人、事務局4人
4. 会議の公開・非公開 公開(傍聴者なし)
5. 職務代理者あいさつ
6. 前回議事録の確認について
資料に基づき事務局より説明。(議事録要約をホームページに掲載)
7. 議事

- (1)「みらいふじさわスポーツ元気プラン」の進捗について

資料に基づき事務局より説明。

8. 報告事項

- (1) 部活動の地域移行について

資料に基づき事務局から説明。

<主な意見・質疑>

(委員) 運動部・文化部ともにモデル校を抽出することだが、同じ学校から抽出するのか。地域によっては人材が十分いないため、完全に地域移行した時に、そのような学校が対応できるのか不安。また、連絡会等の資料を参考にご提供いただけないか。

(事務局) 抽出は、同じ学校に限るものではない。地域によって事情が大きく異なるため、地域の方と検討しながら、まずは先行事例に適した学校を選んでいく予定。今後、公開できる資料があれば、皆様に提供させていただく。

(委員) 現在は各校対抗の形で大会が行われているが、地域移行によりクラブ活動化してくると、上部大会の代表の選出など、大会が難しくなってくるのではないか。

(事務局) 今まで同様に、皆が予選に参加して、県、全国、という大会のやり方は、おそらく難しくなってくると思う。また、競技性を高めたい子と、楽しみたいという子の差がかなり出てくると思う。

(委員) 部活動顧問の先生は、平日の放課後と土日・祝日も出なくてはならないが、その分の給料はほとんど出ていないという。地域移行した場合、地域の方に無料でやってくださいと言われてもできないだろう。国から予算を取って、ちゃんと支払うシステムを取らないと、地域から不満が出てくるのではないか。

(事務局) 先生は1週間ほとんど休みが無いような状態。それを地域の方に

無償でやってくださいというのは、かなり難しい。自治体で金を出せと国は言うてくるかもしれないが、莫大な予算が必要。

(委員) 地域移行した場合でも、中には引き続きやりたいという先生もいると思う。その先生に対してもお金は支払われないのか。

(事務局) 地域の指導者に先生が入るといいう仕組みをちゃんと作らなければならない。

(委員) 毎日活動する部活の場合、地域の方も毎日参加する想定なのか。休日だけということもあり得るのか。

(事務局) 現役で働いている世代の方がやりたいと言った時に、どのタイミングでできるのか、ということは課題として認識している。

(委員) 地域移行は休日だけの話ではないのか。平日も含むのか。土日だけではなくて平日も一気に移行するとなると、3年間では事実上無理だろう。お金も無いし、地域のマンパワーも無い。

(事務局) 平日・休日すべてだと認識している。

(委員) 部活動を教育活動の一環としての位置づけから切り離し、地域活動としてやっていくのか。

(事務局) 学校から離す前提で協議が進んでいる。この点に関してはかなり議論を起こすだろうし、現時点で十分な審議ができていないため、我々も心配している。

(委員) 今の学校の状況についてお話ししたい。部活動は本来、勤務時間の中でやる教育活動の一環だが、プラスアルファで子どもたちのためにという形でやってきた。多少、特別勤務の手当は付くが、時給計算するとそんなものかという程度。金銭を目当てにやっていたわけではないが、教員からすると、部活後に教材研究や学級事務をやらなければならない、勤務時間がさらに苛酷になって、実際に学校に来れなくなっている先生もかなり増えている。また、先生にも家庭等の事情があり、部活動の指導はできないと断られたとしても仕方ない。

また、今は子どもたち全員が部活に入っているわけではなく、地域の中でやっている、あるいは地域にも所属せず、授業が終わったら帰るといふ子どももたくさんいる。やりたい子が集まっても、人数が集まらないケースもあり、1つの学校では無理なのであれば、複数の学校、地域の中でチームを作ってもいいというルールも出来ている。

最近、巷で言っているようなブラック企業に思われていることもあり、教員資格を取っても、教員採用試験を受ける人がおらず、

教員の成り手がいない。教員になりたい人がちゃんと子どもたちの教育活動に携わってもらえるよう、1つの働き方改革という意味を込めて出てきた話が、部活動の地域移行なのではないか。地域の受け皿を整えていってほしい、地域の子どもたちを地域で育てたいということから出てきたものだと受け止めている。

(委員) 今まで長い歴史の中で、いろんな全国大会や国体、オリンピックとあるが、基本は学校体育が支えていたものであり、それが部活であると思う。その部活を完全に学校外へ出すというのは、ものすごく大きな大変革だと思う。

(事務局) 学校側からは干渉しないことになるが、8月に実施したアンケートの中では、子どもたちと一緒にスポーツ活動や文化活動をやりたいという先生はいる。ただ、やりたいと回答した先生が予想よりはるかに少なかった。

(委員) 忙しいという理由もあるかもしれないが、勝利至上主義のように勝つのが当たり前という部活の雰囲気嫌だという思いが強いのか、あるいは、とにかく部活を整理してほしいという単純な動機なのか。

(事務局) どちらの動機も含めて、いろんな背景があるのだと思う。

(委員) 最近は核家族が多く、子どもの面倒など家庭のことを考えなければならぬ家庭が多い。時代の流れもあり、仕方ないとも思う。

(事務局) 地域スポーツを支えてくださっている方々が、幸いにも藤沢にはいらっしやる。ただ、すべての種目で人数が揃えられるのか、という大きな問題にもなり、議論は尽きないと思う。試行し、課題を整理しながら進めていかなければならない。

(委員) モデル校を選定する際の選定基準はあるか。

(事務局) 今後設置される、外部の有識者を含めた準備連絡会の中で検討していくことになると思う。

(委員) 中学生は、基本的には参加費はかからない方向で考えていくのか。

(事務局) 参加費はかかる方向で議論は進んでいる。文部科学省は、最初のうちは一定程度の助成はすると言っているが、移行が完了したから助成終了となると、運営できなくなる市町村が出てくると思う。文部科学省の言うとおりに進められるのかということも、大きな課題だと認識している。

(委員) 地域に移行し、参加費が必要になると、納められる家庭はいいが、納められない家庭の子どもたちの気持ちを考えると、切なくなる。義務教育の中で、そういうものを移行していくのか。中学

校の場合は基本の基本だから、誰かが技術的なものを教えてやって、楽しくやって、ということが保障されない限り、健全な青少年の育成にならないのではないか。

(事務局) ご意見、教育委員会と共有させていただく。

(2) 令和4年度今後の事業予定について

資料に基づき事務局から説明。

<主な意見・質疑>

(委員) スポーツシンポジウムの内容を教えてください。

(事務局) スポーツシンポジウムは、藤沢市スポーツ連盟が初めて行う主催事業で、参加予定人数は140人程度、場所は藤沢商工会館、時間は2時間程度を予定している。2部制で、第1部は基調講演で、慶應義塾大学の小熊祐子先生から「スポーツの力」をテーマにお話いただく。第2部は、小熊祐子先生と、スポーツの6団体から1名ずつ代表の方に登壇いただき、パネルディスカッションを行う。最後に、時間の都合もあるが、一般の参加者140人皆さんと意見交換を行う予定。

9. 閉会